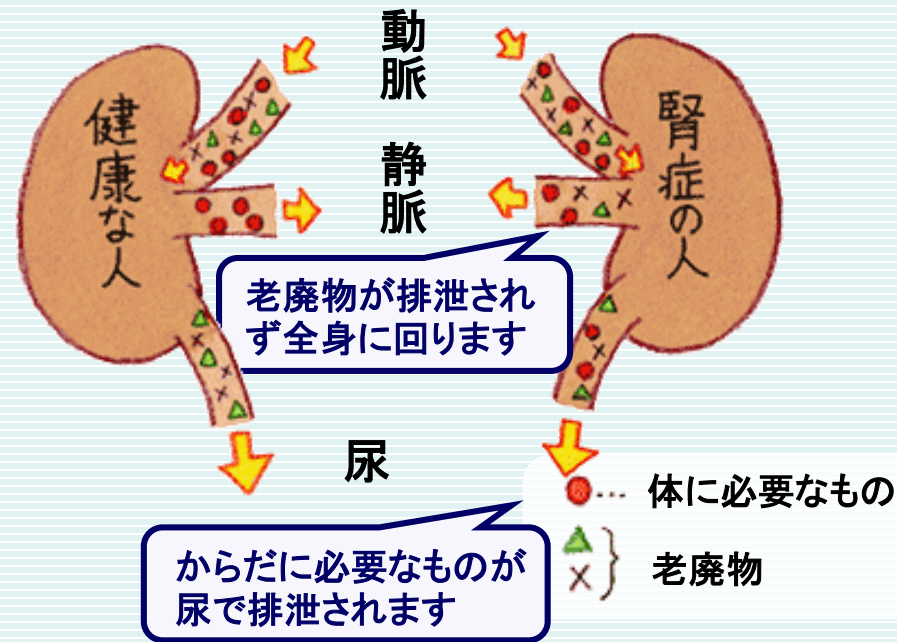


お薬は継続して飲み続けることが大切です

治療を怠ると・・・

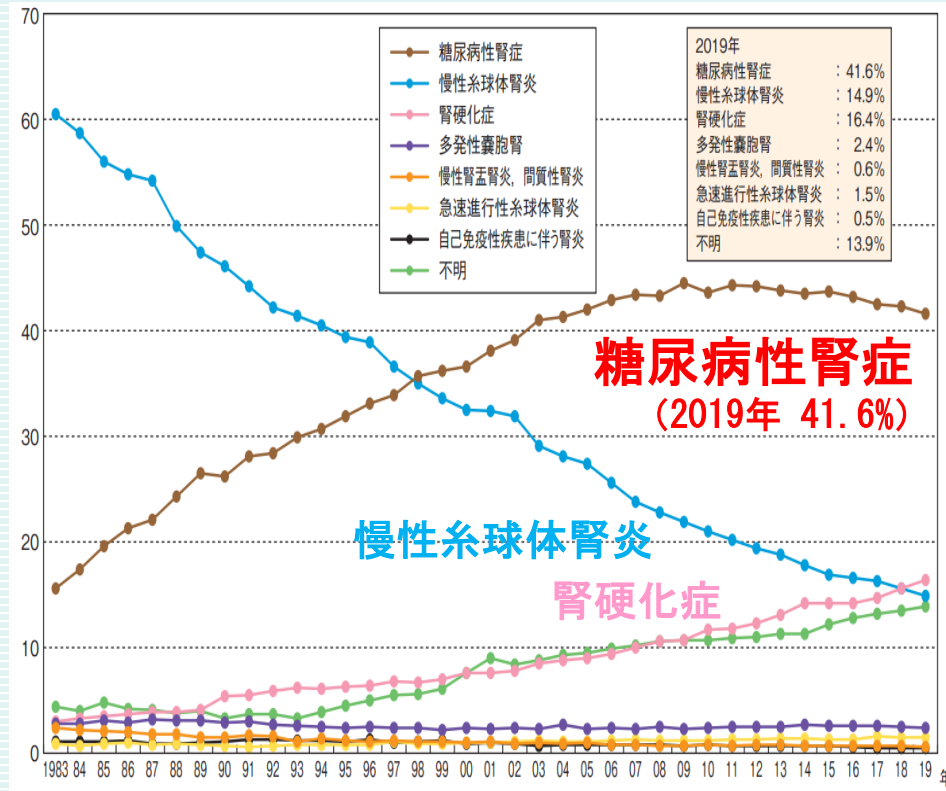
糖尿病による腎症



さらに悪化すると

①糖尿病性腎症

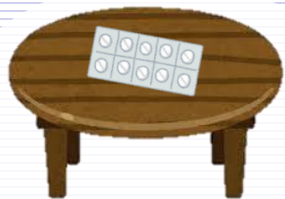
糖尿病性腎症は透析導入の原疾患でトップです



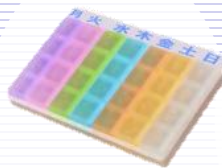
透析が必要になる場合があります

飲み忘れは工夫することで減らすことができます

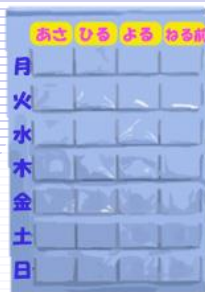
あらかじめ飲む薬をセット



食卓に置いておく



ピルケース



服薬カレンダー

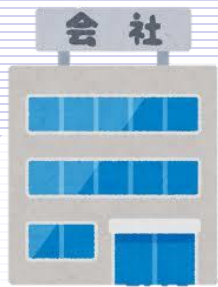
スマートフォンの利用



アラームをセット



服薬管理アプリ



職場や鞆にも数回分を用意



病院・薬局に相談



忘れにくい服用時間、
1日1回製剤に変更



一包化

②飲み忘れ

服薬のタイミングは調整できる場合があります

- ・朝食を食べない
- ・昼食を食べない
- ・夕食に飲酒をする

等で食前・食後の薬を飲んでない事がありますか？



はい

どのタイミングだと服用可能ですか？

主治医へ薬剤・用法の変更の確認



③食事の時間

シックデイ※時の服薬ルールを決めておく必要があります

シックデイ※になると血糖コントロールが著しく困難になります

(※シックデイ: かぜや下痢、発熱などの感染症)

【例】

どの程度加減するのか、具体的に
主治医と決めておいてください

●経口薬

(ビグアナイド、SGLT2)

(インスリン分泌を促進する薬)

▶ 食事が摂取できない
場合は**服用中止**

▶ 食事の量に合わせて
加減する

●GLP-1受容体作動薬

▶ 吐き気などがなければ
いつも通り注射する

●インスリン製剤

▶ 血糖値をみながら
単位数を**調整する**

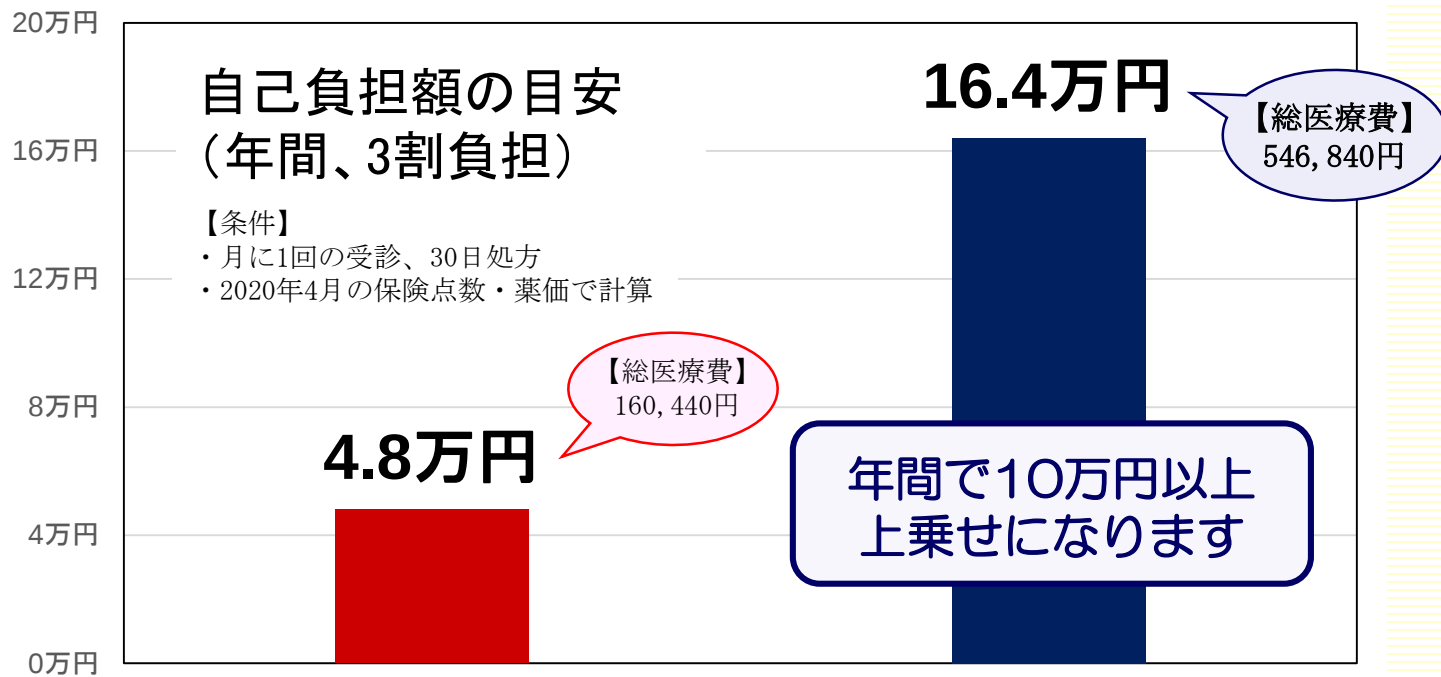


④シックデイ

自己中断すると自己負担額が高くなる場合があります

糖尿病のみ

糖尿病性腎症を 合併した場合



受診＋2剤服用

受診＋インスリン療法(1日4回)
＋腎臓の経口薬2剤
＋血糖自己測定(月60回以上)

治療にかかる年間の

⑤自己負担額

使いにくい時は補助具もあります

力が入らない場合

- ① 両手の親指を重ねてボタンを押し切る
- ② 注入器に輪ゴムを巻く
- ③ 補助具を使用する



滑り止め具の一例

⑥注射剤の手技

見えにくい場合

- ① 拡大鏡(虫メガネ)を使う



- ② 識別シールを使う



識別シール
(製剤ごとに色や形の
ことなるもの)

識別シール
(凹凸の印が付いた
シール)

低血糖が起きた時の対応

「低血糖かも？」異常な空腹感、体のだるさ、動悸、冷や汗、ふるえ等

すぐに血糖値と症状の状況を確認

血糖値を測定(可能な方)

低血糖があるとき

- ・ブドウ糖10gまたはブドウ糖を含む飲料水150ml～200mlをとる
- ・砂糖の場合は倍の20g
- ・αグルコシダーゼ阻害薬を内服されている方は必ずブドウ糖

15分後症状が改善されないとき

もう一度(ブドウ糖10gまたはブドウ糖を含む飲料水150ml～200ml)

症状が改善したら食事をとる



血糖が測定できないとき



⑧低血糖